

高学年の Small Talk の実践

―帯活動「Picture English」の実践を通して―

稲沢市立大里東小学校 教諭 鈴木 啓太

1 学校・児童の実態

本校は、稲沢市の東端に位置し、全校児童は589名、各学年3学級である。本校の教育目標である「自主的な態度に満ち、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな国民として、未来を創造する、たくましい子の育成」を目指して、教育活動を行っている。

また、稲沢市より「小学校英語教育推進事業」の委託を受け、平成29年度は「日本人教師とALTの役割を明確にし、めあてと振り返りを取り入れた授業実践」をテーマに実践を進めた。日本人教師である学級担任がリスニングポイントを児童に示すことで、児童はALTの英語を焦点化して聞こうとし、児童の内容理解につながった。また、授業の冒頭に提示した「めあて」について、授業の終わりに「振り返り」を行うことで、児童は授業で学んだことが「できるようになった」と実感することができた。このように、平成29年度の実践では、ティーム・ティーチングでの学級担任とALTの役割分担の工夫や、めあての提示と振り返りの場の設定により、児童の理解が深まることが分かった。

移行期間である平成30年度からは、「コミュニケーションを図る力を育成する授業づくりルーティン学習の工夫と活動に見通しをもたせた外国語活動の授業を通して―」をテーマに、児童が学習した表現を用いて、自分の考えや気持ちを伝えることができるようになることを目指し授業実践を進めてきた。その中で、本実践は、平成30年度の第5学年児童32名を対象にした「日本語を介さず視覚的に語彙を習得することを目指した帯活動」と「教師と児童による、身に付けた表現を使う Small Talk」の取組である。

2 ねらい

新学習指導要領の小学校外国語科の目標に、「自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができる基礎的な力を養う」とある。自分の考えや気持ちを相手に正確に伝えるためには、豊かな表現が必要であると考える。そこで、豊かな表現を支える語彙を習得するための活動と、やり取りの言語活動である Small Talk を帯活動として行うことで、自分の考えや気持ちを伝え合うことができる基礎的な力を養うことを目指す。

3 実践

(1) 手だて

ア 語彙の習得を目的とした帯活動

児童が音声で慣れ親しんだ既習の語や表現を練習する活動を、帯活動として継続して行うことで、豊かな表現を支える語彙を児童が習得できるようにする。

イ 国語科と関連させた Small Talk の指導

国語科で学んだ会話を続けるポイントを思い出す場を設定することで、他教科での学びを Small Talk に生かせるようにする。

ウ 教師と児童による Small Talk の実践

教師と児童による Small Talk を継続して行うことで、「話すこと〔やり取り〕」の活動に段階的に取り組ませながら、児童が自分のことを自信をもって英語で伝えることができるようにする。

(2) 指導の実際と考察

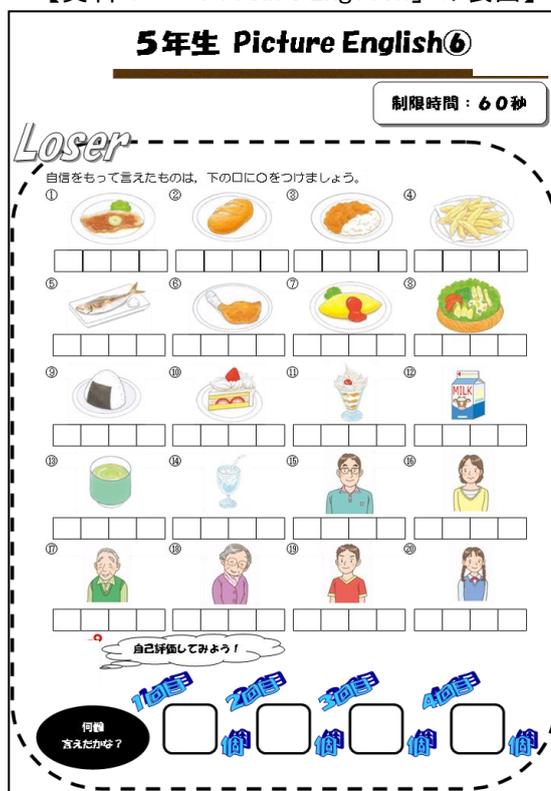
ア 語彙の習得を目的とした帯活動

高学年では、「話すこと〔やり取り〕」の言語活動の一つとして Small Talk が設定されている。しかし、語彙が少ない児童にとっては、英語で自分のことを十分に伝えることができず、満足できる活動にすることが難しい。そこで、本校の外国語活動では、3～6年生で語彙を習得する帯活動をルーティン学習と名付けて取り組んだ。高学年では、単調なドリル学習にならないよう、ゲーム的な要素を取り入れたペア活動を行った。

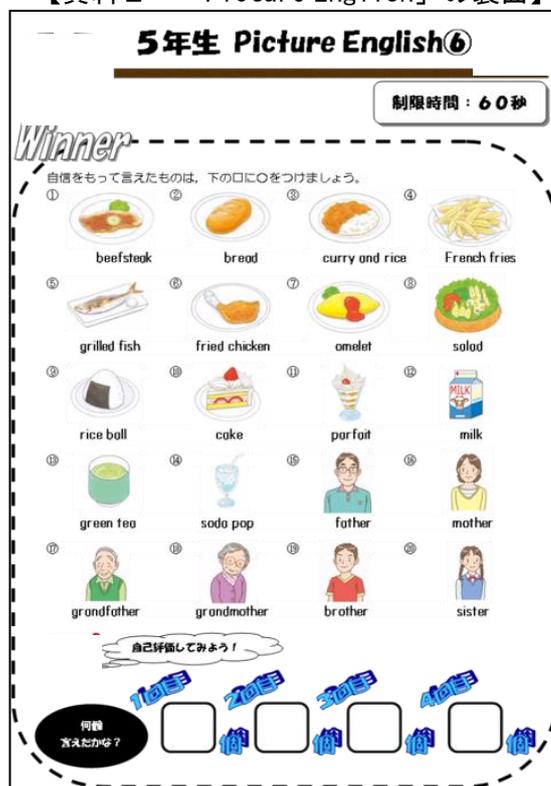
最初は、6年生の活動名を「すらすら英単語」とし、ワークシートには「①りんご」「①apple」と日本語と英単語を記していた。しかし、英単語の文字を見て読む活動ではなく、児童が日本語を介さずにイメージから英語の語彙を習得する活動にすることが重要だと考えた。そこで、活動名を「Picture English」に変え、使用するプリントは、イラストのみが掲載された表面（資料1）と英単語が掲載された裏面（資料2）の両面で構成し、意味となる日本語を掲載しないこととした。英単語の文字は、小学校外国語活動教材「We Can!」使用フォントとした。また、「Picture English」に取り組む前には、ピクチャーカードを使って、英語の表現を聞いたり言ったりする活動を設定し、児童が十分に慣れ親しんだ表現を使用するという点も重要な点である。

5年生の Unit 8 では、主に食べ物についての「Picture English」に取り組んだ。Unit 8 の第1時では、ALT または専科指導教員によるピクチャーカードを使った口頭練習を行い、食べ物や家族の呼称の表現に慣れ親しませた。その後、ピクチャーカードと同じイラストが掲載されている「Picture English」のプリントを児童に配付した。表面は解答者用で、裏面は出題者用となっている。児童は、Unit 1 から「Picture English」に取り組んでいるため、活動の手順（資料3）に沿って、自分たちで活動を進めることができた（写真1）。第2時以降も、「Picture English」に取り組む前に、ピクチャーカードを使った口頭練習を行うことで、児童が間違った表現や発音のまま活動を続けることがないようにした。また、解答する時間を60秒とし、時間制限を設ける

【資料1 「Picture English」の表面】



【資料2 「Picture English」の裏面】



ことで、児童はゲーム感覚で時間内により多くの問題に答えようと積極的に取り組んでいた。さらに、ペアで活動することで、英語を話すことが苦手な児童も友達に聞きながら取り組むことができ、児童同士の教え合いや学び合いにすることができた。単元の後半では、多くの児童が制限時間内にプリントにある20個のイラスト全部を英語で言うことができるようになった。

【資料3 「Picture English」の手順】

- ① 隣の席の児童とペアをつくり、ペアでじゃんけんをして、出題者と解答者を決める。
- ② 出題者の児童は、イラストと英語が掲載されている裏面を見ながら、番号を英語で言う。
- ③ 解答者の児童は、イラストのみが掲載されている表面を見ながら、出題者の児童が言った番号を聞いて、そのイラストが表す英語を言う。そして、イラストの下の空欄に「○」を記入する。
- ④ 60秒経過したら教師が合図を出し、出題者と解答者を交代して、②・③を同じように行う。
- ⑤ 60秒経過したら教師が合図を出し、児童はイラストの下に自分が記入した「○」の数を数え、「何個言えたかな？」の欄に、「○」の個数を記入する。

【資料4 「何個言えたかな？」の欄】



【写真1 「Picture English」に取り組む児童】

イ 国語科と関連させた日本語による Small Talk の指導

国語科の学習の中で、「休日の過ごし方」について、ペアで1分間、会話する場を設定した。日本語での会話ではあったが、会話を続けることは児童にとって難しかったようだ。自分たちの会話を振り返りながら、会話を続けるために自分が気を付けたことをペアで出し合うこととした。その後、もう一度、同じペアで「好きなもの・好きなこと」について、2分間、会話を行った。1回目の会話と比べると、2回目の会話では、質問を相手に聞き返したり、相手の質問に対する答えに新しい情報を加えて伝えたりする児童が増え、1回目より長く会話を続けることができた。再度、会話を続けるために自分が気を付けたことをペアで出し合った後、聞き手や話し手のポイントを学級全体でまとめた（資料5）。

国語科の学習を通して児童が気付いたことを、外国語活動の Small Talk に生かせるように、聞き手と話し手のポイントをまとめたものを教室に掲示した。すると、関連することを更に付け加えて答えようとしたり、自分が答えた後に質問を返そうとしたりする児童が増えた。

【資料5 聞き手や話し手のポイント】

聞き手のポイント

自分の質問に相手が答えたら、

- ・相手の答えを繰り返して、相づちを打つ。
- ・相手の答えについて感想を言う。
- ・相手の答えを聞いて、更に質問する。

話し手のポイント

相手に質問されたら、

- ・質問の答えだけでなく、何か一つ加えて答える。
- ・答えた後に、相手に質問する。

ウ 教師と児童による Small Talk の実践

5年生の Small Talk は、教師の話を聞くことを中心に、教師と児童が英語でやり取りを行う活動である。「教師によるデモンストレーション」と「教師と児童との1往復のやり取り」を基本の活動として、やり取りの回数を少しずつ増やしながら、段階的に指導していくこととした。教師によるデモンストレーションは、学級担任とALTまたは専科指導教員で行った。

Unit 5では、「自分や友達のできること」について話したり尋ねたりする表現を学習する。そこで、第2時から、Small Talk のテーマを「できることやできないこと」として、教師と児童とでやり取りを行った(資料6)。デモンストレーションとして、T1が自分ができるスポーツをT2に伝えた後、そのスポーツができるかをT2に尋ねた。児童は、T1とT2のやり取りを見て、Small Talk のテーマや使える英語の表現を知る。その後、T1が児童一人一人に、スポーツについてできるかできないかを質問した。Small Talk に取り組み始めた初期段階では児童の応答は、文でなく、単語でもよいとし、1往復のやり取りを繰り返したが、Unit 5では、文で答えられる児童が増えた。

T1は、児童の答えを聞いて、“Oh, you can play tennis.”と復唱したり、“Really.”などの相づちを打ったりして、相手の話に対する聞き手の反応の仕方を示すようにした。また、児童の実態に応じて、関連する質問を追加するなど、会話を続けるための基本的な表現を Small Talk の中で使用した。

児童Aは英語を話すことに自信がなく、自分から進んで英語を使って友達と話すことに抵抗がある。

10月に行った「できること」についての Small Talk では、教師が2人の児童とやり取りを行った後、児童Aに“I can ski. How about you?”と質問をすると、児童Aはすぐに答えることができなかった(資料7)。11月に行った「冬休みに行きたい国」についての Small

Talk では、教師が1人の児童とやり取りを行った後、児童Aに“Where do you want to go during the winter vacation?”と質問をすると、児童Aはすぐに“I want to go to Egypt.”と答えることができた(資料8)。教師が、“Why?”と更に質問すると、“I want to see Pyramid.”と理由を答えることができた。そして、3月に「春休みに行きたいところ」についての Small Talk では、教師が2人の児童とやり取りを行った後、児童Aに“Where do you want to go during the spring vacation?”と質問すると、児童Aは、“Shirakawago (白川郷)”とすぐに答えることができた(資料9)。また、教

【資料6 Small Talk のやり取り】

(デモンストレーション)

T1: I can play tennis.

T2, can you play tennis?

T2: Yes. I can play tennis.

T1: Oh, let's play tennis someday.

T2: O.K. I'd love to.

(T1と児童による Small Talk)

T1: I can play tennis.

S1, can you play tennis?

S1: Yes.

T1: Oh, you can play tennis.

How about you, S2?

【資料7 児童Aの様子(10月)】

T: I can ski. How about you?

A: (約1分間の沈黙) I can recorder.

T: You can play the recorder.

【資料8 児童Aの様子(11月)】

T: Where do you want to go during the winter vacation?

A: I want to go to Egypt.

T: Egypt. Why?

A: I want to see Pyramid.

【資料9 児童Aの様子(3月)】

T: Where do you want to go during the spring vacation?

A: Shirakawago (白川郷).

T: You want to go to Shirakawago.

A: I want to see Sakura (桜).

T: Oh, you want to see Sakura.

A: Do you like Sakura?

師が“You want to go to Shirakawago.”と児童Aの言ったことを繰り返すと、自分から“I want to see Sakura (桜).”と理由を英語で伝え、“Do you like Sakura?”と教師に質問することもできた。

4 成果と課題

(1) 実践の成果

平成31年3月に5年生児童に行った意識調査の結果によると、9割以上の児童が「Small Talk をする上で『Picture English』は役に立った」と回答している(資料10)。「Picture English」を使って、日本語を介さず新しい語や語句の定着を図ったり、ゲーム的な要素を交えてペアで取り組んだりしたことで、児童が楽しみながら語彙を増やすことができたと考える。また、8割以上の児童が「Small Talk が話す活動に役に立った」「Small Talk において、4月よりも教師の話す内容を理解できるようになった」と回答した。「話すこと [やり取り]」の言語活動として、Small Talk に継続的・段階的に取り組むことで、児童は英語を聞いたり話したりすることができるようになったと自分自身の成長を実感していることが分かる。

【資料10 5年生児童意識調査の結果(平成31年3月実施)】

質問1 Small Talk をする上で、「Picture English」は役に立ったと思いますか。	
①とても役に立った	9人(28.1%)
②役に立った	20人(62.5%)
③あまり役に立たなかった	3人(9.4%)
④役に立たなかった	0人(0.0%)
質問2 Small Talk は話す活動に役に立ったと思いますか。	
①とても役に立った	10人(31.2%)
②役に立った	18人(56.3%)
③あまり役に立たなかった	4人(12.5%)
④役に立たなかった	0人(0.0%)
質問3 Small Talk で、4月と比べて、先生の言っていることが分かったり、話せたりするようになったと思いますか。	
①とても話せるようになったと思う	20人(62.5%)
②話せるようになったと思う	7人(21.9%)
③あまり話せるようになったと思わない	3人(9.4%)
④話せるようになったと思わない	2人(6.2%)

語彙を増やし、豊かな表現力を養う「Picture English」を使った指導を通して、児童は自分の考えや気持ちを伝え合うことができた。また、そのことを Small Talk を通して児童自身が実感し、英語を聞いたり話したりすることに自信をもてるようになった。

(2) 今後の課題

令和2年度から外国語科として教科化されるため、学習した内容の定着が求められる。既習事項を繰り返し使用する場を設定することで定着を図る必要がある。また、新学習指導要領が目指す資質・能力を身に付けるために、授業の中でどのような活動を行うのか、「目的・場面・状況」を明確にした言語活動を工夫していきたい。

参考文献等

- 文部科学省『小学校学習指導要領』平成29年3月公示
- 『自分の本当の気持ちを「考えながら話す」小学校英語授業—使いながら身に付ける英語教育の実現』 山田誠志 編著 日本標準 2018